

第8回 芳賀町ジェンダー川柳コンクール

主催：芳賀町女性団体連絡協議会

今年で第8回目を迎えることのできたジェンダー川柳コンクール。応募数は247句でした。本会での予備審査後の2月7日、町民会館において梨の実吟社、地域公民館長連絡協議会、PTA協議会、教育委員会の方々により審査会が実施されました。審査員皆様の熱心な審査に感謝申し上げます。応募くださいました皆さん、楽しくて感心するようなたくさんの川柳をありがとうございました。



入賞作品

最優秀賞

わが家では家事も育児も ONETTEAM

芳賀南小学校5年 和田 佳大

優秀賞

子育ては 二人三脚 パパとママ
男女の差 こわしてつくれ 新時代
「おれやるよ」 その一言で 母笑顔
しわのぼし ちちはアイロン ははおかお

芳賀南小学校5年 君島 千真
芳賀中学校1年 押久保知暉
芳賀東小学校5年 塩田 偉琉
芳賀東小学校5年 備前 蒼空

佳作

男女とも 協力すれば つながる輪
父と母 台所での わらい声
育休で 男もちゃんと 子育てを
ステキだね 男女でつなく 笑顔の輪
「だれがやる」そうではなくて みんなでやる
育児はね 協力し合って やればいい
制服も 自由に選べて 増す意欲
みとめあい 男女の差なく つかむ夢
ランドセル いろとりどりの じぶんいろ

芳賀南小学校5年 大根田淳也
芳賀南小学校5年 小池悠太郎
芳賀北小学校6年 瀬尾 悠人
芳賀北小学校5年 大島 桜和
芳賀北小学校4年 高松 和香
芳賀東小学校6年 橋本 史功
芳賀東小学校6年 江守 陽
芳賀東小学校5年 高久 創多
芳賀東小学校5年 五味淵 凜



編集後記

先の見えない新型コロナウイルスの影響で様々な制約を受け、当たり前前の日常生活がいかにありがたいものかと痛感しているこの頃です。

今年度は、さらに台風被害で日本女性会議が中止になる出来事もあり、どうなることかと気をもみましたが、町及び各学校当局、さらに原稿を寄せてくださいました皆様のご協力のおかげで、創立20周年記念号の発刊にこぎ着けることができました。本当にありがとうございました。

編集委員

荒井美代子 小山 佳子
石下 篤子 齋藤 芳子
小林 久子 人見 章子
小林 峰子 廣木 初江

印刷 株式会社 井上総合印刷
電話 028-661-4723

かがやき

創立20周年記念号



芳賀町男女共同参画都市宣言記念の「寒緋桜」～香りをお伝えできず残念～

宣言は平成27年3月14日、植樹は一周年記念として平成28年3月24日

主な内容

設立20周年企画

- 設立20周年によせて
芳賀町長・芳賀町議会議長
- 活動のあゆみ
- かがやく町民のつどい
- 会員の声

- 総会
- 会員研修
調理実習・講演会
- ジェンダー川柳コンクール
- 編集後記



芳賀町長
見目 匡

設立 20 周年祝辞

芳賀町女性団体連絡協議会が設立 20 周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。また、日頃より町の事業に御協力いただき厚くお礼申し上げます。

さて、現在の私たちを取り巻く社会では少子高齢化が進み、人口減少の一途をたどっています。そのような中、社会の更なる発展には「全ての個人が、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会」の実現が不可欠です。芳賀町女性団体連絡協議会では、設立当初から女性が活躍できるまちづくりの啓発活動を展開されており、心から敬意を表します。町としまして、平成 23 年に『芳賀町男女共同参画計画』を策定、平成 27 年には周辺の市町に先駆けて『芳賀町男女共同参画都市』を宣言して施策を実施して参りました。

皆様の活動や施策が実を結び、性別による役割分担の意識は男女共に緩和していることが町民意識調査で明らかになっています。しかしながら、未だに多くの家庭において、女性が家事の大半を担っているのが現状です。また、近年ではジェンダーのみならず、性的少数者や障がい者などあらゆる視点に立った支援が求められています。

これらを踏まえ、芳賀町では『第Ⅲ期芳賀町男女共同参画計画』を策定して令和 2 年度から新たな取り組みをスタートさせます。今後とも町との連携を深め、誰もが自分らしく暮らせるまちづくりを進めていきましょう。

結びに、皆様の今後ますますの御発展を祈念してお祝いの言葉といたします。



芳賀町議会議長
小林 信二

さらなるアクションに期待

芳賀町女性団体連絡協議会設立 20 周年記念誌「かがやき」の発行に際し、議会を代表しまして一言お祝いの言葉を申し上げます。

また、芳賀町議会の活動につきましても、日頃から皆さま方の深いご理解とご協力をいただいていることに対し、厚く御礼を申し上げます。

皆さまの団体は、国の「男女共同参画社会基本法」の制定と時期を同じくして、女性が主体で活動されております 6 団体で組織されています。

その活動内容は、協議会広報誌「かがやき」において、詳細にご報告されており、いまさらながら私が申し上げるまでもございません。

現在、議会では 1 人の女性議員が、農業委員会では 3 人の女性農業委員、2 人の女性農地利用最適化推進委員が活躍しておりますが、男性に比べ女性は政策決定の場への参加や各分野への登用が少ないという現状があります。

皆さまには、町政の仕組みや議会活動への理解と関心を深めていただき、これからの「まちづくり」に女性の視点を活かしていただきたいと思います。

結びに、今後とも益々研鑽をつみ年間テーマに基づいた、さらなるアクションを起こしていただき、素晴らしい活動結果を「かがやき」誌上で拝見できますようご期待申し上げます。



会 長
小山 佳子

設立 20 周年にあたり

芳賀町女性団体連絡協議会は 20 周年を迎えることが出来ました。これまでの道のりは決して平坦なものではなかったと思われま。今でこそ、私たちは男女共同参画やジェンダーという言葉を実際に使っていますが、それは当たり前のことではなく、男女共同参画社会の推進に努められた諸先輩たちの努力の賜物の上に成り立っているのだと、頭の下がる思いです。また、役員や会員だけではなく、携わってくださったたくさんの方々の御助力がなければここまで来られなかったと、心より感謝申し上げます。

20 年前を想像すると、かなりの熱量を持って取り組まなければ女性団体連絡協議会の立ち上げには至らなかったと思われま。そしてそのバトンを受け取った私たちは、次の世代へバトンをしっかりとつないでいかなければと考えています。

現在当会では、会員の研鑽、町民の皆様に向けての「かがやく町民のつどい」、小中学生ジェンダー川柳コンクール、広報誌の発行などを実施しております。男女共同参画は様々な社会問題にリンクしており、切り口も多彩です。これからも既存の事業にとらわれることなく、多様な価値観をもって展開していけたらと考えています。

これからもどうぞ協力のほどよろしくお願いいたします。



前会長
廣木 初江

設立 20 周年を迎えて

設立 20 周年おめでとうございます。芳賀町の唯一無二のこの女性団体連絡協議会の会員でいられることに、喜びを感じております。町内においてそれぞれの活動をしている団体が、顔を合わせ親しくなり学びを深め、女性の視点から課題をとらえていこうとすることは、重要なことと考えております。

この女性の視点ということに、「女性」「団体」であることは意味があるのかと言われたりします。確かにそうですが、日本において、男女とも同じ権利を持っているのは制度上間違いのないことですが、実際はなかなかそのようにはなりません。男性を立てなければとか、男性の方が勝っているという考え方が知らず知らずのうちに刷り込まれてしまうのも一つの要因だと思っております。また、集団になる、グループを作ることは助け合うことの始まりではないかと思っております。三人寄ればとも言うように、意見を言い合う誰かがいることが大切だと思っております。

目指しているのは、女性も含めた、芳賀町全体が暮らしやすい社会になることです。女性の視点を大切にして、それぞれの団体の活動の中に、意味や使命感を持ち、できることをやってまいりましょう。

結びになりますが、この協議会が芳賀町の女性の活動の「よりどころ」であり続けることを願っております。

活動のあゆみ ～かがやく町民のつどい～

年 度	活動の内容
平成 22 年度 H 23. 1. 31	財団法人全日本ろうあ連盟 創立 60 周年記念映画 映画会「ゆずり葉」 出演 大和田伸也、今井絵理子、圧崎隆志他
平成 23 年度 H 24. 2. 25	講演・実技「『すっきり暮らす』を学ぶ」 講師 宇都宮友の会 渡辺 よし江氏
平成 24 年度 H 25. 1. 18	講演・実食「病気になる体作り」 講師 農学博士・管理栄養士 竹井 真澄氏
平成 25 年度 H 25. 6. 8	映画会「人生、いろどり」 出演 吉行和子、宮司純子、中尾ミエ他
平成 26 年度 H 27. 3. 14	男女共同参画都市宣言 記念ライブ「歌う海賊団ッ！」 出演 船長：ウチダトモヒロ他
平成 27 年度 H 28. 2. 14	講演「男女共同参画の視点から見たまちづくり」 講師 茨城大学社会連携センター准教授 長谷川 幸介氏
平成 28 年度 H 29. 1. 28	講演「男女共同参画の視点から見た まちづくり Part.2」 講師 茨城大学社会連携センター准教授 長谷川幸介氏
平成 29 年度 H 30. 2. 17	講演・エレクトーン演奏「音で育む絆」 講師 エレクトーン奏者 石下 有美氏
平成 30 年度 H 31. 2. 24	講演「防災まちカフェ in 芳賀」 講師 スマートサバイバプロジェクト特別講師 かもん まゆ氏
令和元年度 R 2. 1. 19	20 周年記念講演 「パパをもっと楽しむ」 ～父親が変われば 家庭地域社会が変わる～ NPO 法人ファザーリング・ジャパンファウンダー代表理事 安藤 哲也氏



活動のあゆみ ～会員研修・日本女性会議参加～

年 度	会員研修	日本女性会議
平成 22 年度	12 / 9 体験・見学 (那須塩原市) 「トライ・トライ・トライ体験館」	京都市 「ひとりひとりが輝く色彩あふれる世界」
平成 23 年度	10 / 3 体験・見学 (宇都宮市) 「県防災館・ヒューマンフェスタとちぎ」	松江市 「語ろう・紡ごう・だんだんの縁を世界へ」
平成 24 年度	* 日本女性会議参加	仙台市 「きめる、うごく、東北から」
平成 25 年度	1 / 9 見学 (東京都) 「そなエリア東京・国会議事堂」 2 / 6 講演会 「終活を考える」	阿南市 「いきいきわくわく小さな町から新たなステージ」
平成 26 年度	9 / 11 見学 (宇都宮市) 「ジャパンテック(株)宇都宮工場」 9 / 11 交流会 (小山市) 小山市女性団体連絡協議会	札幌市 「未来の景色はわたしたちが変える」
平成 27 年度	6 / 21 研修会参加 (宇都宮市パルティ) 「栃木県民のつどい」 12 / 10 実技研修 講師 大貫 須美絵氏 「ラフターヨガ」	倉敷市 「希望の社会は“わたしたち”にある」
平成 28 年度	8 / 31 見学 「煉瓦窯」(野木町) 「古河トモエ乳業」(古河市) 2 / 8 講演会 講師 斎藤 美華氏 「アンガーマネジメント」	秋田市 「みつめてみとめてあなたと私」
平成 29 年度	8 / 30 見学 (古河市) 「ヤクルト茨城工場」 「古河ヤクルト販売会社」 11 / 22 実技研修 講師 JA はが野女性会 「貼るだけで出来る手帳カバー作り」	苫小牧市 「北の大地で語ろうこれからの未来の一步を」
平成 30 年度	10 / 17 講演会 講師 布施 智子氏 「女性起業家に学ぶ」(益子町) 10 / 17 見学 「常陸国出雲大社」 11 / 29 講演会 講師 中村 明美氏 「DV 相談と支援の実際」	金沢市 「たたえようこれまでの道彩ろう未知なる明日」
令和元年度	12 / 15 調理実習 講師 石下 尚美氏 「お役立ちお正月料理」 2 / 22 講演会 講師 堀中 里香氏 「日常における整理収納が非常時の防災備蓄収納にもつながる」	* 佐野市大会中止 「ようこそ!『人生100年時代』さあ、共に語り、絆結ぼう」





講師 安藤哲也氏

令和元年度 女性団体連絡協議会

『パパをもっと楽しむ』

芳賀町「かがやく町民のつどい」20周年記念講演

パパをもっと楽しむ

父親が変われば
家庭、地域、社会が変わる。

令和2年
1/19 (日) 開演/12:30 閉演/13:00~15:00
芳賀町農業者トレーニングセンター
2階研修室 (芳賀町芳賀町大字朝月1090)

託児あり(定員30名)
年 費: 未就学児~高1歳
場 所: 2階研修室
料 金: 1/10(金)
申込先: 芳賀町女性団体連絡協議会事務局(芳賀町民会館内)
電話027730009 ※日・月曜、祝日休館

入場無料
(申し込み不要)

講師: **安藤哲也**氏 (NPO法人ファザーリング・ジャパン
代表理事)

プロフィール
1965年生まれ、二男一女の父親、出版者、翻訳者、IT企業など多岐にわたる職を経て、2006年にファザーリング・ジャパンを設立。『育児も仕事も人生も笑って楽しめる父親を増やしたい』と、年間200回以上の講演、企業セミナーなどで全国を飛び回る。2012年には社会的養護の拡充と児童虐待・DVの根絶を目的とするNPO法人タイガーマスク基金を立ち上げ代表理事に、2017年には「人生100年時代をデザインする」をコンセプトに(株)ライフシフト・ジャパンを立ち上げ代表取締役社長を務める。

主催: 芳賀町女性団体連絡協議会 共催: 芳賀町教育委員会

安藤哲也氏プロフィール

出版社、書店、IT企業など9回の転職を経て、2006年にファザーリング・ジャパンを設立。「育児も仕事も人生も笑って楽しめる父親を増やしたい」と、年間200回以上の講演、企業セミナーなどで全国を飛び回る。2012年には社会的養護の拡充と児童虐待・DVの根絶を目的とするNPO法人タイガーマスク基金を立ち上げ代表理事に、2017年には「人生100年時代をデザインする」をコンセプトに(株)ライフシフト・ジャパンを立ち上げ代表取締役社長を務める。

芳賀町農村生活研究グループ協議会 綱川 まゆみ

「育児も仕事も人生も笑って楽しめる父親を増やしたい」と全国を飛び回り、様々な活動をしている安藤先生の講演会は笑いあり涙ありで楽しく時間が過ぎました。

育児といえば母親の仕事と昔は特に思われてきましたが、実は父親も育児に関わることで子供の自尊心が高まり、成績優秀、人間関係良好で社会性も向上する等のデータがあるそうです。又、父親は育児を取ると出世するそうです。それは、なぜ泣いているかわからない赤ちゃんを育てる事で、親や妻に感謝する心がわき、聞く力等の能力が備わり、それが仕事にも生きるそうです。そして、家事もして妻を支えれば、妻はもう一人と思うようになり少子化対策につながり、又、子供のSOSにもきちんと向き合えば、家庭内の悲しい事件もなくなるそうです。先生ご自身も、家事・育児をされ、思春期のお子さんともしっかり向き合ってこられたので、娘さんから成人式の日に感謝の手紙をもらうなど良い家庭を築かれています。



かがやく町民のつどい 20周年記念講演会

令和2年1月19日(日) 13時~15時
芳賀町農業者トレーニングセンター

～父親が変われば 家庭、地域、社会が変わる～

芳賀町ひばりの会 小筆 公子

安藤氏は三人のお子さんの子育て中に「子供のいる人は戦力にならない」と上司に言われ衝撃を受けたという。新しい父親像について常に前向きである。現在の日本は男性育児の社会化にはまだまだ発展途上にあると思う。ちなみに今回の講演も子育て中のパパの参加は2名で、意識の低さを痛感した。核家族化が進む今日、男性も仕事と育児の両立を苦しみながらもだんだん楽しめるようにやっていくことが必要であろう。『はたらく』とは人が動くこと。傍を楽にすることだという。



父親が育児に関わることで母親のストレス軽減・就労・キャリア継続・夫婦関係の強化などメリットが大である。夫の家事育児の時間が長い程、第2子以降の出生率が高くなる。結果として、日本の少子化を加速させないことにつながる。父親が変われば家庭が、地域が、企業がそして最後には社会が変わるという。

イクメン目指して、まずは小さな第一歩をスタートしてみませんか!!

～アンケートより～

- ・楽しく良いお話を聞くことができた。息子たちにも先生のお話を伝えたい。
- ・今日の講演は、家庭にも地域にも芳賀町にも大事なことと思った。
- ・子供と関われる時間は限られているのだから、できるだけふれあう機会を多くつくる。少子化は、子供を育てにくい社会を変えていかないと改善されないと思った。
- ・意識を変えた働き方、父親の育児は良いことだと思う。男性参加者が少なくて残念だった。ぜひ、男性や若い方に聞いて欲しかった。
- ・働き方を変えるのは上司。『イクボス』の講演をやって欲しい。
- ・協力的な夫だけど、さらに「誉め」「認め」一緒に成長していこうと思う。



会員の声



与能
荒井美代子

私の人生、振り返れば、楽しい事、嬉しい事、そして、困難な事もありました。

J A はが野芳賀地区女性会や町女性団体連絡協議会など女性の集まりに参加して、常に前向きな言葉や行動生き生きとした仲間達に出逢う事が出来て、幸せでした。とても、感謝しています。

働きながらの子育ても終わり、今では7人の孫達の成長と、仕事、趣味、旅行と、これからの人生、楽しく過ごしたいです。



東水沼
石下 篤子

「人見知り」この歳になってもどうしようもありません。嫁いだ先は農家。良くも悪くも自分の向きたい方向を見ていれば、おのずと交流は生まれにくい環境です。しかもインドア派。そんな私が「外の世界に」在るのは、この会がキッカケ。

おかげで沢山の失敗・反省をする事となりました。が、貴重な経験とも言えます。知らない事を知る楽しさはこの会あればこそ。少しは成長できているでしょうか。信長公が舞った敦盛の一節「人生50年…」がふと頭に浮かびました。



稲毛田
今井 由佳

今年度の会員研修、堀中先生の講演は「飛散防止シートは食器棚の扉の外面に貼る」など具体的かつ詳細で私たちが想像しやすく、一人でも多くの人を救いたいという熱意がひしひしと感じられる内容でした。東日本大震災から9年が絶ち、

とてつもない緊張感のさなか家族を守らなければという当時の強い使命感でさえも、日々の営みの中で薄れていたことに今回気付かされ、改めて減災防災に真摯に取り組んでいこうと思いました。



下高根沢
磯 孝

昭和56年栃木県が実施した「第1回婦人の海外研修」に町から推薦され、アメリカ・カナダ12日間の「ボランティア研修」に参加させていただきました。その時私は36才。10才、8才、4才の三人の娘を夫に託し、実家の母、義姉それぞれ周囲の身内を巻き込んで大変な12日間だったと思い知らされました。お陰様でその5年後、芳賀町に特養が出来ると聞いた時、自分が身を投じて働きたい職場と迷う事無く飛び込むことが出来ました。



下延生
岩松みち子

童話で「わすれられないおくりもの」という本をご存じの方も多いでしょう。子ども向けですが、読み返してみると今の状況等が重なり合って、感慨深いものがあります。

女団連の活動も、先人達の言うに言われぬ苦労や尽力によって、これまで継続し発展してきました。活動に参加する事で、微力でも未来へ繋ぐ中継の一端になるかもしれません。私は、そう考えています。『共に生きる』という事が当たり前となる事を願っています。



東高橋
梅澤 知江

女団連の役員となり4年になります。平成30年度「防災まちカフェ～私たちにできること～」の研修が印象に残っています。ママ向け防災講座を開催する「かもんまゆ」氏の講演を聞きました。子供達が大人になった時に必ず来る災害(地震)に対して、被災時でもタフに生きられる子育ても大切と話されてました。大震災の様子を流したVTRでは、涙が出てしまいました。このような女性の活躍を知り、生き方を考えさせられる4年間でした。

会員の声



西高橋
大根田理子

先日、院展に行き、その際に「栃木の書壇50人展」を見て来ました。その時、幸運にも孔子之語「忠恕(ちゅうじょ)」を出展された方に解説を伺う事ができました。その方は、「『忠恕』の意味の中に『思いやり』があります。これからの社会いろいろな方が共生していく上で『思いやり』が大切です」と話されました。この言葉が心に強く残ったので、これからも「思いやり」をもって女団連をはじめ様々な活動をしていきたいと思いました。



芳志戸
菊地富士子

女団連の役員として、12年間関わって来ました。一番心に残っているのは、東日本大震災の翌年、仙台で開催された日本女性会議に、女団連の研修会として参加した事です。国際会議場に入る前に、震災で被害に遭った地区の視察をしました。海に向かっていく程に、辺りの様子が酷くなっていくのを目の当たりにし、基礎だけ残る住宅、山積みになった車、誰一人いない学校、涙が溢れてきました。あの光景は脳に焼き付いています。



上延生
小林 功子

女団連にはJ A女性会員として関わって来ました。広報誌「かがやき」を読み返し、いきいきと活躍される諸先輩方を、なつかしく思い出しています。

毎回ためになる「女性のつどい」の内容にふれるたびに、参加人数が少ない事を残念に思いました。どうしたらもっと沢山の人の来てもらえるか、永遠のテーマでしょうか。今よりもっとかがやく女性になるために、女団連の行事に参加しましょう。



東水沼
小林 久子

私は、栃木県の次世代人材づくりの研修において日本女性会議「松江」に始めて参加し、以後、本協議会の活動を通して、さらに家族の協力を得ながら、毎年のように続けて日本女性会議に参加してきました。貧困やLGBT、防災、Jアラート、SDGsなどタイムリーな課題について充実した研修ができました。「かがやく町民のつどい」も毎回有意義な内容の研修を実施しています。男女問わず、是非たくさんの方々に参加していただきたいです。



祖母井
小林ゆかり

20周年を迎える芳賀町女性団体連絡協議会広報誌『かがやき』の発行は、これまで携わって来られた先輩方をはじめ、たくさんの熱い思いが、地域や団体の垣根を越え、助け合い・支え合い・協力し合って、心が繋がってきた『証』なのではないでしょうか。

初めての経験で不安な時「大丈夫だよ」と温かく見守られている心強さは、私にとっての“おまもり”となり、顔を上げ、前を見て進んでいける大きな力となりました。

会員の声

東高橋
小林 峰子

振り返ってみると、女団連に関わるようになって10年以上。役員の顔ぶりも変わり時間の流れを感じる昨今です。その間いろいろな人たちとの出会いがあり、また多くの学びもありました。会員として活動する中で、少しは成長できたのかなと思っています。現在どの団体でも会員減少の問題があります。組織に入って初めて学べることや新しい出会いがあります。今後会員数が増えて各団体が元気になり女団連が発展することを祈っています。

稲毛田
佐藤 幸枝

女団連の活動の中で一番印象に残っているのは、「かがやく町民のつどい“病気にならない体作り”」で竹井真澄先生の講演です。今でこそ「酵素」とか「食べる順番」とか注目されていますが、私たちはいち早くこの情報を勉強していたんだなアと思いました。震災後の講演でしたので、原発事故による食べ物の放射性物質の影響など関心が高まり、食生活を見直すきっかけになりました。また機会がありましたら講演して頂きたいです。

下高根沢
関 優子

消費者生活リーダー養成講座を受講した後、くらしの会に入会し、出前講座で地域の高齢の方々と啓発を通じて触れ合ったり、町民祭で啓発グッズを配布したり楽しく活動しています。女団連のバス視察研修では自分一人では行けない場所に行き、美味しい物を食べたり見学したり、会員研修でも講演やいろいろな体験ができ、有意義に活動しています。身体は不自由ですが、これからも少しでも多く参加できたいなと思っています。

東水沼
齋藤 芳子

令和元年10月25日(金)～27日(日)佐野市で開催予定だった日本女性会議が、直前に襲われた自然災害台風によって、開催が困難になり、中止となりました。自然の力には到底及ばない人間の弱さを、目の当たりにさせられました。明日は何が起きるかわからない事を体験し、毎日毎日を大切に生きる事を教えて頂きました。後日送られてきた大会プログラムを拝見し、前々から準備にあたられた方々、企画者の皆様のご苦労と、最後まで出来なかった心残りの複雑な思いが伝わって参りました。本当に有難うございました。そして、お疲れ様でした。心から感謝申し上げます。

東高橋
綱川久美子

私は18年ほど前に女団連の役員を経験しました。何も分からず、各団体の活動や、活躍されている先輩方に圧倒されました。まだ男性が主導権をとる時代でしたが、如何に女性の考え方、行動力が鍵を握っているかを目の当たりにし、自分自身も成長しなければと強く思いました。今では女性の社会参画、経営参画と多数の方が活躍しています。今後も男女の別なく共に活動できる社会を目指し、輝き続けましょう。

東高橋
綱川まゆみ

私は、この2年間、役員として活動させて頂きました。はじめは何もわからず、また、10年程前になりますが、脳内出血で2週間半身不随になっていた事もあり、体力に自信がない私に務まるのだろうかと不安でしたが、他の団体の方と交流できるのは楽しく、行事や講演会では多くのことを学ばせて頂きました。私にとって、女性団体連絡協議会や農村生活研究グループ協議会で、外に出て活動する事がリハビリにもなっています。

下高根沢
人見 章子

私は、女性団体連絡協議会に加入して2年になります。講演会では、講師の方々のお話を聞き、パワーに圧倒されつつも、先生方の生き方に感動しました。また、新たな気づきをいただきました。自分の生活を振り返り、今できることから後回しにせず、行っていきたいと思いました。調理実習では、会員の方々と調理の豆知識の情報交換もでき、楽しい時間でした。各研修に参加して、自分の日常生活への刺激をいただくことができました。

稲毛田
福田 純子

入会してから6年がたった今、思い起こしてみると、いろいろな研修を重ねてきた中で印象に残ったのは、笑いヨガ、怒りの感情をコントロールするアングーマネジメント、そして、エレクトーンを交えての石下有美氏の講演でした。ご自身の人生を語ってくださりとても共感し、聞いているだけで涙が溢れてくるものでした。また、視察研修もあり、多くを学ぶ事ができました。これからも地道な活動を続けていこうと思います。

東水沼
増渕さつき

平成16年に「芳賀くらしの会」からの理事として協議会に関わる事になった当初、私の愚問に対して、多くの先輩から協議会の有り様について丁寧に説明していただいたことが懐かしく思い出されます。その諸先輩も既に引退され、今年年長組になってしまいました。多くの団体がつながることでより発信力を高め、次世代への橋渡しができるよう日々活動していきたいと考える今日この頃です。

与能
山崎ひろ子

昨年、参加した料理教室。作ったのは、たまりゴボウ漬、松前漬、伊達巻の3品。当日、私は伊達巻を受け持ちました。はんぺんと卵をミキサーにかけ、だし汁を加えてIHの鍋で焼くのですが、火加減が難しく石下先生に何度も調整して頂き、どうか「鬼巻き簀」で巻いた伊達巻は、なかなかのものでした。今年、我が家のおせちにも3品が加わり、特に伊達巻は義母にも好評で、これから定番メニューになりそうです。

令和元年度芳賀町女性団体連絡協議会 総会



第20回総会が、5月21日(火)町民会館研修室において、生涯学習係長 田中亜紀子氏のご臨席をいただき開催されました。

「芳賀町ひばりの会」の磯孝さんを議長に円滑な議事進行で無事終了しました。

その後、家庭教育オピニオンリーダー会芳賀支部の小山さん、阿久津さん、山本さんから「日本女性会議 2018 金沢」の研修報告がありました。



調理実習 お役立ち正月料理



とってもおいしく
できました!!

令和元年 12月15日(日)
生涯学習センター調理室



講師 石下 尚美氏

J A はが野芳賀地区女性会

阿久津 和子

石下先生を招いて、正月料理に挑戦しました。松前漬け・伊達巻き・ごぼうのたまり漬けを3人一組で調理しました。皆さん日頃の腕前をいかに発揮しながらも、和気あいあいと調理して、あっという間に作り終えました。おせちのレパートリーも増え、お正月にお客様をもてなすのが楽しみです。



家庭教育オピニオンリーダー会芳賀支部

土井 昌子

12月15日に、正月料理の伊達巻と松前漬け、たまりごぼう漬けを、石下尚美先生に教えていただきました。

正月料理の中でも、伊達巻は我が家では一番人気の一品ですが、オーブンで焼くのがつい面倒で、市販品ですませてしまう事がほとんどでした。けれど、今回、IH調理器を使い簡単にふんわりと焼きあげるコツや、切れはしまで無駄にしない巻き方の工夫を教えてくださいました。これからは、我が家の食卓でも、手作り伊達巻の登場する機会が増えそうです。

松前漬けは、家庭によって味や切り方も異なり、参考になりました。

様々な団体の会員の方たちとも交流を深める事ができ、楽しいおしゃべりと美味しいお料理で、とても有意義な時間を過ごす事ができました。

会員研修講演会

「日常における整理収納が 非常時の防災備蓄収納にもつながる」

令和2年2月22日(土) 13時～15時
芳賀町農業者トレーニングセンター

芳賀町女性団体連絡協議会では、定期的に防災について学んでいくべきと考えております。今回は、宇都宮在住『かたづけこびと』代表の堀中里香氏を迎えて、整理収納することで、自宅の安全確認から防災を考えました。貴重な学びになった研修会でした。



講師 堀中 里香氏



受講者感想

芳賀くらしの会 岡田 順子

阪神淡路・東日本大震災以後各地で自然災害が多発している。私たちにできる防災対策とはどのようなものがあるのか。

整理収納関連の資格を持つ堀中先生は、災害に遭遇したとき一番大事なことは、**自分の命を守る対策を考えておくこと**とおっしゃる。

各家庭で、家具・家電の固定、通路の確保等々不要なものを整理しながらできる収納。それをするにより災害を少なくおさえられるというもガッテン。

「今、災害がおきたらどんな行動をしますか？」と問われ、一瞬出てこない。ちょっとの時間が大きな結果に繋がる、危機感不足を確認。

また、事前準備のなかで避難袋は人数分用意・賞味期限の確認・非常食の試食・各自持つために、必需品・重さ等も考える。実際使うものも人によって違うことを再確認。早速我が家の避難袋を確認。これは大変、入ってはいるが…。今すぐできる、誰にも役立つ講演を拝聴させていただき感謝です。ありがとう。

芳賀つばさの会 小林 久子

「ここで震度6の地震が起こったらどうなるか想像してみましょう。」そんな堀中先生の問いかけから始まった研修会。東日本大震災の経験から、電気が切れる、ドアが開かない、電球が割れる、机が倒れる、物が落ちるなど具体的な事柄が思い浮かぶ。じゃあどうするのか。まず自分の身を守るために、頭を守ることだそうだ。じゃあ家だったら？自分の身を守るためには、落ちる、割れる、倒れる恐れのある物は、日常から片付けておくことが大切だとのこと。まず、不要な物は減らすと再確認する。また、避難時の必需品は各自自分で使う物を中心に、重さも考慮してそれぞれ家族の分を整え準備しておくことを理解した。我が家では自分の分しか用意してなかったのが、大変参考になった。私事だが、東日本大震災では我が家の石塀が倒れ、竜巻では屋根の瓦が飛び、そして昨年の台風時には実家が被害に遭った。願わくは災害のないことだが、備えは十分にしておきたいと思った。